

雪がた

—— 豊科病院だより ——

豊科病院広報誌

平成27年9月1日 発行

発行者 豊科病院広報文化委員会
〒399-8205

長野県安曇野市豊科5777-1

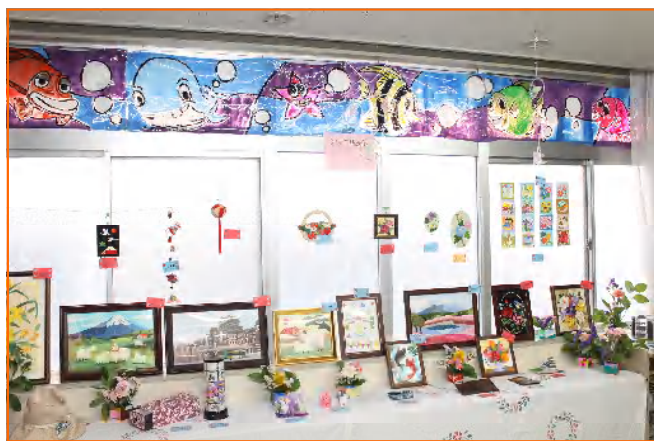
URL <http://shironishi.or.jp/>

豊科病院の理念

自他を問わず人間を愛し、慈しむ心を礎に、病める人、障害を持つ人、悩める人に常に自分の家族に接するように優しく接し、最良の医療・福祉サービスを提供し、地域の人々の要求及び個別的な要求にも応え、地域で人々が快適に生活できるような支援を行う。

文化祭開催！

当院では、毎年7月下旬に、文化祭が開かれ、病院に入院されている方、あるいは外来に通院されている方々が、作業療法やデイケアにて制作された作品を展示したり、1年間の活動を報告されたりしてきました。ここ数年、諸事情からお休みをしていましたが、その文化祭が7月31日から8月1日に復活しました。



今年は、作業療法室の入り口に綺麗な花をあしらったアーチを取り付け、ステンドグラスや天の川をモチーフにしたオブジェなど、環境から楽しめる工夫が凝らされていました。



作業療法室にて手芸やパソコンなどをされている方々の作品展示は勿論のこと、様々な事情で、作業療法室まで移動が困難になった方々が中心に作成されたフラワーアレンジメントや、寝たきりの方を中心に制作された手形のうちわなど、多くの力作が展示されました。そして、この期間中のイベントでは、各病棟で1ヶ月かけて練習したフラダンス×クイズ歌といった出し物が披露され、衣装も大変きれいでした。その他、合間に行われたビンゴゲームやかき氷会なども楽しめました。

また、精神科デイケアからは、作品展示生け花活動報告のほかに、

農場でとれた野菜や、デイケアの紹介パネルが展示されました。実際に準備した期間は1ヶ月ほどでしたが、皆さん意欲的に作品作りに取り組み、新しい発見が数多くありました。

作業療法とデイケア。そのリハビリテーションの内容や活動は似通っていますが、参加されているメンバーの方々はそれぞれ個々のペースで力を身につけられています。また、入院中の方にとっては、地域生活についての貴重な情報収集の場ともなります。作品を発表する場だけではなく、作業療法とデイケア



に通われて
いる方が、お
互いの交流
を深めるた
めにも、今
後も続けて
いきたいと
思います。

第36回あづみ野祭り

踊りの部

「優秀賞」受賞

7月25日に第36回あづみ野祭り主催 あづみ野祭り実行委員会が開催されました。

この祭りは毎年、安曇野市豊科地域で行われ、メインイベントのあづみ野ばやし踊りが、JR豊科駅前の国道147号線を中心に繰



り広げられます。踊りに参加する連は、地元自治会 小学校のクラブ又企業等で構成され、今年も46連約3千200人が参加しました。

当院は、老人保健施設安曇野メディアとの合同連で42名が参加。猛暑の中でしたが、2時間にわたる熱い踊りを無事終えることができました。準備から本番最後まで、様々な方の協力により成功をおさめたあづみ野祭り。今年も踊り連コンテストで「優秀賞」をいた

いただきました。
今後も当院は地域のお祭りやイベントに積極的に参加していきたいと思えます。

バイキングで満腹

6月のB病棟のバイキングに引き続き、7月下旬に、C病棟にてバイキング第2弾が実施されました。年に1回のバイキングとあって、今回の病棟でも、患者さんはとっても楽しみにされていました。

バイキングでは、食べられる量ももちろんのこと、いつもと一風変わったメニューも楽しみのひとつ。今回のメニューはどれも、太巻き寿司、いなり寿司、天ぷら、夏野菜のキッシュ、牛肉



と玉ねぎの甘酢炒め、コールスロークサラダなどなど。中でも目を引いたのは、スイカの中身を丸ごとくり抜いて作られたフルーツポンチ。丸々2個のスイカが使われ、味や量はもちろん、見た目でも豪快さと夏らしさを満喫されていました。

心の癒し(27)

「野外フェス」

皆さんは野外フェスをご存知ですか？

野外フェスとは一言で言つと、野外で行われる音楽フェスティバルのことです。

単独のライブとは異なる、野外フェスは



様々なアーティストが一同に集結します。

私はこのフェスが大好きで毎年国内で開催される様々なフェスに出掛けたいです。

目当てのアーティストを楽しむのはもちろんの事、全く知らないアーティストを知る良い機会にもなります。

野外フェスは夏場のスキー場や、キャンプ場、高原などで開催されることが多く、自然を満喫でき、青空の下で芝生に寝転がって好きな曲を聴く、私にとつてとても贅沢で穏やかな気分になる時間です。

中には2日間以上キャンプなどと一緒にフェスもあり、テントを張つてご飯を作り、寝袋で寝泊りします。山間部で行われることが多いので、夏場は昼は30度近



く、気温が上がると、夜は10度くらいまで下がり、夜間は真っ暗な場所で一晩お風呂なしで過ごすなど、多少過酷で不便と感じることも少なくありませんが、その不便さも野外フェスの醍醐味といったところでしょうか。

「」長野県も山や高原が多いこともあって大小さまざまなフェスが開催されています。今年のうちから、来年どのフェスに参加しようか計画を立てることが、私が日々の仕事をがんばられるモチベーションにもつながっています。



流しそうめん

in デイケア

今年はニュースでも流しそうめんについて取り上げられ、流しそうめんが店頭で涼しそうな装いをそえています。

当院精神科デイケアにおいても、昨年度より流しそうめんを年間行事として取り入れています。

昨年度は、ペットボトルを用いて、手作りでレインを作ったのですが、今年は雨どいを用意しました。7月の第3週目を流しそうめんウィークとし、期間中は、食事療養部で用意して頂く昼食に代り、主食をそうめんにしました。

近年デイケアは、多種多様なニーズで利用されています。作業所に行っている方の休息の場として、健康維持のための外出機会や身体ケアをする場として、地域で生活されている方の憩いの場として、求職中の方の準備の場として、昼間の居場所として、利用される曜日も頻度も様々です。そこで、各曜日に幹事をたて、それぞれの日にあった形での開催を試みました。買い物なら任せて「洗い物はするよ」□をだすだけならやつてもいいかな「□」は任せて、そうめん食べておいでよ一等、幹事を中心に自分にできる役割を見つけて、思い思いに参加をされていました。また、レインの設置の仕方も、開催されることに工夫が加えられレバルアップ

流れるそうめんに集中!!



していきましました。同じ企画を毎日行うため、他のメンバーがどのようにに幹事をしているのかを参考にしたり、曜日によって違った役割を担ったりと、いつもの行事とは違った体験をさせていただきました。

1週間同じ企画を続けることには賛否両論ありますが、朝の内は乗り気ではなかったメンバーさんも、気温が高くなるにつれて意欲が高まっていったようです。薬味をたっぷり入れ、冷たい水に流れるそうめんの味は格別で、栗年は毎日ではなく、曜日を替えて数週間にわたって開催してみてもどうか。平等、建設的な意見も出されています。



外来 医師担当表

平成27年 9月1日現在

曜日	月	火	水	木	金	土
	なかざわ ちとお 中澤 知遠 医師	にしぎと よしあき 西里 吉昭 医師	ごみぶち みつり 五味洸 満徳 医師	ごみぶち みつり 五味洸 満徳 医師 又は なかざわ ちとお 中澤 知遠 医師	なかざわ ちとお 中澤 知遠 医師	ごみぶち みつり 五味洸 満徳 医師
	休 診	ささき みほ 佐々木 美保 医師	休 診	むかい ゆういち 向井 雄一 医師	きのた ふみや 木野田 文也 医師 第2・第4金曜日	休 診

◎ 受付時間 午前 8:00～午前 12:00

◎ 診療時間 午前 9:00～終了まで

※ 午後は全科**休診**となります。

※ 日曜・祝日は全科**休診**となります。

※ご不明な点等は、受付へご確認下さい。



～ 編集後記 ～

豊科病院広報誌『雪がた』第38号をお届けしました。お読みになっていかがでしたか？

8月に入りウダル程の猛暑が続き、盆明けは急に涼くなりましたが、皆さまは体調管理はできていますか？夏といえば『花火』ですね。最近では花火職人を志す若者が増えているといいます。単に『カッコよさ』だけでなく、花火を通じて「多くの人を楽しませ、感動と夢を提供する」というような情熱を持った花火職人がどんどん増える事はとても喜ばしい事ですね。

ここ安曇野でも8月14日には今年で9回目を迎える花火大会がありました。

今年は1万3000発。犀川のほとりで行われるこの花火は、夏の風物詩として親しまれ、近隣から多くの見物客が訪れて、大変なにぎわいでした。夜空に広がる華麗な花火が川面に移る光景は、日頃の疲れも吹き飛ばす幻想的な美しさですね。

※表題「雪がた」について

春から夏にかけて北アルプスでは様々な雪形が見られ、当院からは常念岳の常念坊や、蝶ヶ岳の蝶などの雪形を正面に望むことが出来ます。雪形が季節の変化に合わせて融けるように、患者様の病も融ける・・・表題にはそんな願いが込められています。

(表題の写真は当院屋上から撮影しました。)